

令和2年度 保健福祉センター内障害者福祉センター指定  
管理者総合評価

【評価対象年度】：令和元年度

施設のサービス水準の視点 コメント

生活介護の利用延べ人数は、平成30年度に比べ令和元年度は334人増加しており、日平均も1人の増加となっており、利用者ニーズや急な対応、利用日の希望に応え、一人あたりの利用日数が増加した点について評価する。また、放課後等デイサービスの利用延べ人数は、平成30年度に比べ令和元年度は513人減少しているものの、定期利用日以外でのデイの利用要望に応え、長時間対応するなどの対応をし、利用者に満足いただいている点について評価する。

収支状況 コメント

支出について、人件費が予算額より多くかかっているが、職員の増員や長期勤務による職員の定着ができていくということであり、職員の充実がサービスの向上に繋がると考えられ、この点について評価する。収入については、予算額を上回っており、収支（実績ベース）で純利益が出ていることから収支状況は良好であると判断できる。

市による総合評価 コメント

当指定管理者は、利用者やその家族のニーズ把握に努めるために、家族交流会やアンケート調査を実施しており、その家族交流会やアンケート調査で把握したニーズを踏まえ、利用者の増加及び利用者の満足度の向上に取り組んでいる。  
収支状況については、職員の増員や定着により、支出は増加したものの、収支報告により良好な経営状況であることが確認できた。  
自主事業においては、今年度は「交流」に主体をおき、恒例のふれあい祭りでは周知方法を変更するなどしたことにより、来場者が大幅に増加し、地域の方々との交流の機会を多く作れたことや、外泊企画の体験場所を初の他県にしたことにより、利用者はこれまでとは違う体験ができ、保護者からも満足の声をいただけていることについて、評価する。  
今年度末に発生した新型コロナウイルス感染症に対して、職員の手洗いうがいやマスクの着用、設備の消毒等の対策を徹底したことにより、通常どおり運営されたことについて、評価する。  
今年度も送迎車両の物損事故が見受けられたため、利用者の送迎に関してはさらなる安全運転の徹底や運転技術の向上を求める。  
以上の理由により、概ね協定事項等の水準どおりに施設運営されていると判断した。

総合評価

B

総合評価区分凡例

- A：協定事項等を上回る水準で施設運営がされ、大変良好なサービスが提供されている
- B：概ね協定事項等の水準どおり施設運営がされている
- C：協定事項等の水準以下であった